

# 平成30年度 総務委員会（後期） 行政視察報告書

1. 視察日程 平成31年1月22日（火）～1月23日（水）

2. 視察先及び視察内容

(1) 埼玉県久喜市（1月22日）

久喜市シティプロモーション推進指針について

(2) 埼玉県春日部市（1月23日）

かすかべ未来研究所について

3. 参加者

委員長	<u>高橋 靖銘</u>		
副委員長	<u>大窪 民主</u>		
委員	<u>杉山 章夫</u>	<u>高木 理文</u>	<u>勝間田博文</u>
	<u>勝間田幹也</u>	<u>高橋 利典</u>	
当局職員	<u>鎌野 晃</u>	(企画課長)	
事務局	<u>佐藤 歌愛</u>	(議会事務局副参事)	

4. 視察先対応者

久喜市 総務部 シティプロモーション課長 渡辺様 他  
春日部市 総合政策部 政策課長 波多野様 他

## 5. 視察内容

### ■ 『久喜市シティプロモーション推進指針について』

平成31年1月22日（火） 13:20～15:00 於：久喜市役所

#### 《視察研修の目的》

「シティプロモーション推進指針」を策定する事により、どのような手法で市内外へ情報発信しているのかご教示いただき、参考にするため調査したい。

#### 《視察先の概要》

人口 153,908人(平成30年6月現在)  
面積 82.41km<sup>2</sup>  
議員定数 27人

#### 《視察内容》

久喜市は、より魅力的なまちになり、だれもが、「行ってみたい」「住んでみたい」と思えるまち、「住んでよかった」「ずっと住み続けたい」と実感できるまちを目指しシティプロモーションを推進している。取り組み内容としては以下の通りである。

##### 【取り組み例】

- 市民や関係団体との連携
  - ご当地ナンバー（原動機付自転車）の導入〔合併5周年記念事業〕
  - 久喜市マスコットキャラクター（しょうぶパン鬼一・来久(like)ちゃん）の活用
  - 地域のイベントを活用した地域間交流
  - クッキーダンスの普及
- 担当するシティプロモーション課では
- PRビデオの作成
  - クッキーダンスの復旧活動
  - 観光ガイドの作製
  - クッキー甲子園の開催（高校生によるオリジナルクッキーのコンテスト）
  - 親善大使の委託、活用
- などの業務を担当している。

## 《考 察》

今回の視察では久喜市のシティプロモーションではクッキーダンスの普及の取り組みについて説明が主であった。説明いただいた動画資料において皆さんのはじける笑顔や1,000人でのクッキーダンスは圧巻であった。また、久喜北陽高校チア部がクッキーダンスを各種イベントで披露し市民の一体感が生まれてることはもとより市外に対しても久喜市のアピールに繋がっている。

各自治体で、独自の対応で人口減少社会の現実の凌駕を目指している。今回、久喜市の取り組みをご教示頂き、当市としてのオリジナリティ溢れる取り組みを模索する必要性を実感した。官民一体となり「一步前進」のまちづくりが実現できる様、鋭意努力していく決意を固めた。



## ■ 『かすかべ未来研究所について』

平成31年1月23日（水） 9:30～11:00 於：春日部市役所

### 《視察研修の目的》

「かすかべ未来研究所」という自治体シンクタンクを設置し、政策課との業務を分けた形で、どのような機能を有し、どのような取組みを行って政策の実現に繋げていくのかなどを調査する。

### 《視察先の概要》

人口 235,244人(平成30年6月現在)  
面積 66.00km<sup>2</sup>  
議員定数 32人

### 《視察内容》

地方自治体を取り巻く環境が大きくかつ急激に変化していく中、地方自治体は、自己決定・自己責任のもと、市民ニーズを的確に捉え地域の課題を明確にしたうえで、課題解決に取り組んでいくことが求められている。春日部市においては先進的な自治体として発展していくために、市の自主性・自立性を高め、地域の特徴を生かした魅力あるまちづくりを進めていかなければならない。こうした中、厳しい財政状況を踏まえつつ、多様化・高度化する市民ニーズにバランスよく、かつ的確に 対応するため、平成23年4月市内シンクタンクとして政策課内に「かすかべ未来研究所」を設置した。

調査研究にあたっては、関連する関係課職員や庁内公募による職員で構成している。これらの職員が参画することで、実践的な調査研究を通して、政策形成を進める上で必要な技能を修得し、人材育成を兼ね備えた事業として実施している。常勤職員は所長1名、副所長1名、研究員4名で構成され、政策形成アドバイザーとして関東学院大学准教授に依頼している。また、各テーマ5人以内（学識経験者・公募市民）で年2から4回程度、意見聴取を行っていた。研究内容や担当課への支援のため、特定の分野における専門的な指導・助言が必要な場合依頼する専門アドバイザーに依頼もしていた。

## 《考 察》

かすかべ未来研究所は設置して7年、市民ニーズ、財政状況、職員の能力の3つの視点で現状を整理することから始まり政策の最適化を目指すべく多くのテーマに取り組んできた。その結果、現在は各担当から計画策定等の際や新規事業の検討の際にもデータ提供の依頼があるとのことであった。これは庁内シンクタンクとしての機能を十分に発揮してきているということである。

かすかべ未来研究所には、様々な情報や研究成果を少しずつ蓄積していくことで、春日部市全体の「知識・知恵」の総合的な集積を図ることができるとともに、最終的には、政策の「最適化」につながる取り組みになって行くであろうと確信する。

本市においても、企画部に未来プロジェクト課を設置しているが、「調査研究機能」、「支援機能」、「人材開発機能」の3つの機能を持って、最終的には各担当課における「政策実現」につながるようシンクタンク機能を有する組織づくりが必要であると感じた。

シンクタンクの活用により、スピード感をもって施策の実現を達成しているのので、参考になった。

